

収 支 予 算 書

1 収入の部 (単位：円)

収入の項目	積算根拠	予算額
(1) 自己資金等		
(1) 小 計		0
(2) 補助金等		
県補助金 (※1)		
(2) 小 計		0
(3) その他		
事業収入 (※2)		(A)
(3) 小 計		0
合計 (※3)		(B) 0

(※1) 県補助金の予算額は、下記の計算式で求めた額を記入してください。

(※2) 事業実施に伴い収入の見込みがある場合（参加料徴収や成果物販売等）は、記入してください。

(※3) 収入の合計額（B）と支出の予算額（C）は、一致するようにしてください。

2 支出の部 (単位：円)

補助対象経費 の項目	積算根拠	予算額 (補助対象経費)	仕入控除 税 額
報償費			
旅費			
需用費			
役務費			
使用料・賃借料			
その他			
合計 (※3)		(C) 0	(D) 0

計算式

県補助金の予算額は、「予算額（補助対象経費）」から「仕入控除税額」及び「事業収入」を差し引き、千円未満を切り捨てた額です。ただし、上限は10万円となります。

県補助金額

$$\left(\begin{array}{l} \text{※千円未満切り捨て} \\ \text{※上限：10万円} \end{array} \right) = (C) - (D) - (A)$$

0

0

0

0

収 支 予 算 書

1 収入の部

(単位：円)

収入の項目	積算根拠	予算額
(1) 自己資金等		122
	仕入控除税額等	9,114
(1) 小 計		9,236
(2) 補助金等		
県補助金 (※1)	県補助金	84,000
(2) 小 計		84,000
(3) その他		
事業収入 (※2)	参加料徴収 (500円×15人) =7,500円	(A) 7,500
(3) 小 計		7,500
合計 (※3)		(B) 100,736

仕入控除税額(D)と自己負担分(千円未満の端数等)の合計を「仕入控除税額等」として記入してください。

【審査基準③】
収支計画の妥当性も審査基準の対象となります。
(収支計画は、事業内容に見合っており、補助金が有効に活用されるものとなっているか。)

(※1) 県補助金の予算額は、下記の計算式で求めた額を記入してください。

(※2) 事業実施に伴い収入の見込みがある場合(参加料徴収や成果物販売等)は、記入してください。

(※3) 収入の合計額(B)と支出の予算額(C)は、一致するようにしてください。

積算根拠は、単価や回数等を明確にしてください。

2 支出の部

補助対象経費の項目	積算根拠	予算額 (補助対象経費)	仕入控除税額
報償費	講師謝金：(3,000円×2H×5回)×1人	30,000	2,727
旅費	講師旅費： 鹿児島市⇄〇〇間の交通費(往復) 3,000円×1人×5回	15,000	1,363
需用費	消耗品：お茶代160円×15個×1回	2,400	177
役務費	通信運搬費：切手代84円×4回	336	30
使用料・賃借料	貸切バス使用料：50,000円×1回 会場使用料：750円/時間×4時間	50,000 3,000	4,545 272
その他			
合計 (※3)		(C) 100,736	(D) 9,114

(課税事業者のみ記入)
・標準税率対象経費：予算額×10/110(小数点以下は切り捨て)
・軽減税率対象経費：予算額×8/108(小数点以下は切り捨て)

計算式

県補助金の予算額は、「予算額(補助対象経費)」から「仕入控除税額」及び「事業収入」を差し引き、千円未満を切り捨てた額です。ただし、上限は10万円となります。

県補助金額

$$\left(\begin{array}{l} ※千円未満切り捨て \\ ※上限：10万円 \end{array} \right) = (C) - (D) - (A)$$

84,000

100,736

9,114

7,500